

掛川市教育研究論文

～資料編～

学校名　掛川市立栄川中学校

所在地　掛川市本所538

職・氏名　　柳瀬　昭夫

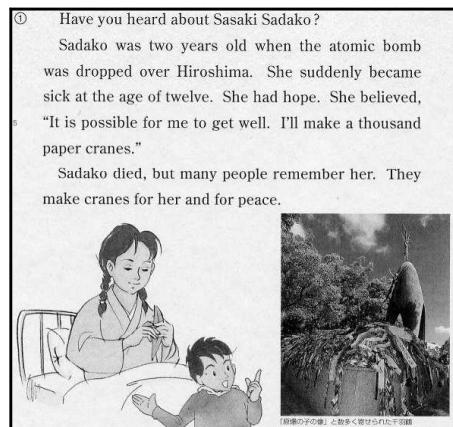
I 教科書のcreativeな活用の実践例

(1)教科書本文を理解する活動

① 教科書本文はoral introductionで

導入の場面では、言語習得の過程に従い、音声から始めました。用意するピクチャーカードは、本文の内容に沿ったものとなるよう、教材用PCにつけ加えて画像を用意した。以下は、New Crown English Course3のLesson 4, "Sadako and a Thousand Paper Crane"で用いた例である。

【Lesson4-1 教科書本文】



【oral introductionで用いた8枚のPC】



※教材用PCは

③, ⑤, ⑧番。

※①, ②, ④, ⑥, ⑦番は理解を助けるために用意したPC。



大須賀中学校:大石尚代先生から

お借りしたビデオテープ→
こちらも授業で紹介しました

←生徒が家から持ってきてくれた本を授業で紹介



リプロダクションまでもっていく教科書指導については、今年度夏の自主研でも発表させていただく機会があり、紹介させたいたい。現在、桜ヶ丘中学校をはじめ、いくつかの中学校でリプロダクションまでもっていく教科書指導が実践されている。取り組まれた先生方からは、「生徒に内容を理解させやすい」「行き詰った教科書指導が打破できた」「生徒が自信をもって授業に取り組めるようになった」などの意見が聞かれた。今後も、多くの先生方からの意見を参考にしながら、よりよい教材作りをおこないたいと考える。

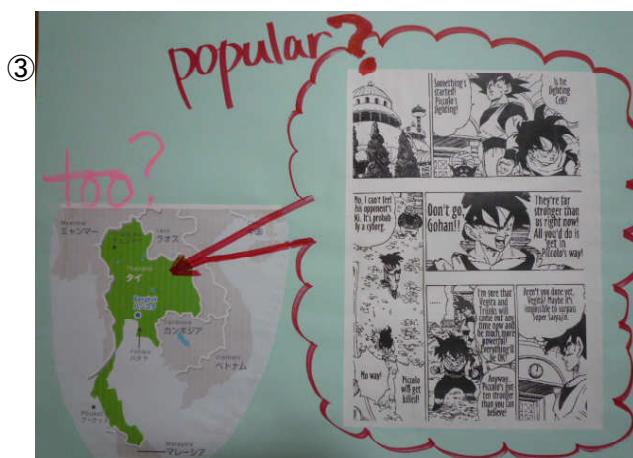
【資料】 口頭導入時に用いた自作ピクチャーカードの例 (Unit3)



My name is Cool. I'm fourteen and I live in Korea.
I like comics.



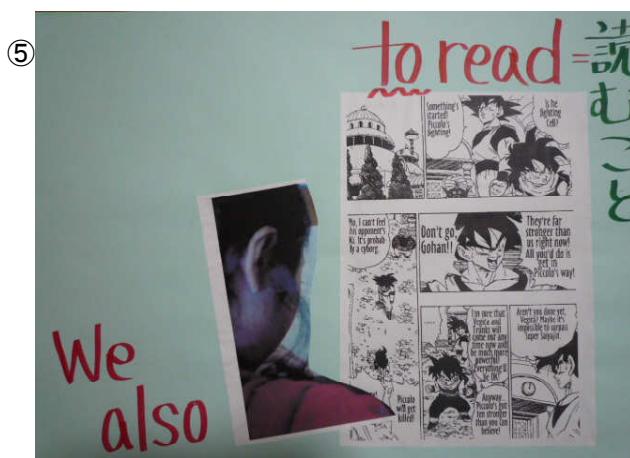
In Korea they're very popular.



Are they popular in your country, too?



Hi, Cool! I'm Lucky. I'm in the fifth grade.



We also like to read comics.



We have a manga club at school.
Do you know the word *manga*?



I'm Sea. I'm seventeen and I live in China.
I know the word *manga*.



It comes from the Japanese language.



In 2000 Hong Kong hosted
the fourth Asian *Manga* Summit.



Many people got together
to talk about *manga* culture.



I like *manga*.
It can tell us about different cultures.



I hope to hear from you soon.

② 教科書本文のsummary

教科書本文の *summary* の一部を空欄にし、それらを埋めさせた。空欄にする語(句)は、前置詞や助動詞など、生徒が苦手としている部分や、新出語などとした。生徒は、黒板の絵を見ながら、何度も文章を読み返して空欄を埋めた。ここでは、教科書を開かせないで穴埋めをさせた。

【資料】教科書指導 ワークシート(表)

Unit 3

E-pals in Asia ②

Class() No.() Name()

★ Summary ★

Sea is 17 and she lives in ().
The word *manga* comes () the Japanese language.
Hong Kong hosted the () Asian *Manga* Summit.
Many people talk () *manga* culture.
Manga () us about () cultures.

★ T or F ★

- ① Sea is a junior high school student.
- ② There was a *manga* summit in Hong Kong.
- ③ Sea tells about different cultures.

| | | |
|---|---|---|
| ① | ② | ③ |
|---|---|---|

★ Q&A ★

- ① Where does Sea live?
-

- ② Does she know the word *manga*?
-

- ③ Where did they have the fourth Asian *Manga* Summit?
-

- ④ What can *manga* tell us?
-

【資料】教科書指導 ワークシート(裏)

①絵を見て、Reproduction してみよう！



② Writing に挑戦してみよう！

| | |
|---|--|
| 私はシーです。私は 17 才で、 中国に住んでいます。 | |
| 「マンガ」という言葉は知っています。 | |
| それは日本語から来た物です。 | |
| 2000 年に、香港が第 4 回アジア ・マンガサミットを主催しました。 | |
| 多くの人々が、マンガ文化を語 るために集まりました。 | |
| 私はマンガが好きです。 | |
| それは私たちに異文化について 教えてくれます。 | |
| あなたたちからのメールを待つ ています。 | |

③ 音読活動の工夫

ア 導入時のbackward reading

長い文の読みを chorus で行っていて、途中から読みがバラついてくるような時に行う活動。例えば、In 2000 Hong Kong hosted the fourth Asian Manga Summit.という文であれば、

- a) Manga Summit
- b) Asian Manga Summit
- c) the fourth Asian Manga Summit
- d) Hong Kong hosted the fourth Asian Manga Summit
- e) In 2000 Hong Kong hosted the fourth Asian Manga Summit.

のようにリピートしていく。これにより、文末の語句を繰り返し読むことになり、最後まできちんとと言えるようになる。教科書を閉本しているときに主に使っている。

イ 十分な内容理解後のread and look up

内容を理解し、ある程度教科書本文が言えるようになってから開本し、音と文字をつなげさせる。read and look up では、一文ずつ本文を覚えてから、顔を上げて読みを行うようにする。ここでは、意味のまとまりを考えながら本文を言うようにすることが大切である。読むときに本文を見ることができないため、読むときの集中力が増していると感じる。また、1文ずつなので英語が苦手な生徒にとっても抵抗が少なく、1回ごとに達成感があると考える。

ウ reproductionにつなげるresponse reading

教科書を開本した状態で、CDや教員の音読を聞き、音読が途中で休止したら、生徒はその続きを文の終わりまで言う。言い終わったら続きを音読を聞き、また途中で休止したら続きを読む。その単元で学習する言語事項を用いている文章では、積極的に休止を入れるようにすると、学習した言語材料の確認の場になる。

エ リレー形式のindividual reading

個人で本文を読む時には、一回通り読んだら列の前の席に移動する。最前列で読み終わったときは、最後尾に移動する。こうして一回読むごとに座席を移動し、自分の席に戻るまでくり返す。列ごとの競争にすると、生徒は意欲的にとりくみ、時間も短くてすむ。開始前に不明な単語の読みについては確認するようにしておくと、きちんと読むようになる。

オ 3秒ルールのつなげreading

生徒は本文のどこでもいいので、一文挙手をして読む。ただし、3秒以内に誰かが手を挙げて、次の文の読みを行わなければならない。また、一人一度しか読むことができない。全員が読みに参加すること、本文の最後まで読み切ることが条件となっている。簡単な文だからと、一度に多くの生徒がそこで挙手をすると、本文の最後までたどり着く前に全員読み終えてしまうため、スリルがあり、楽しく reading ができる。

カ つなげpair reading

ペアで読みを順番に行っていく。交代する場所は、文のどこでもよい。交代して欲しいときは机をたたいて知らせる。間を開けずに読むように指示すると、ペアの読みを集中して聞くようになる。

④ 教科書本文のreproduction

| ●reproductionまでもっていく | |
|--------------------------------|--|
| 【閉本】 | |
| ①PC+keywordsでoral introduction | |
| ②一文ずつ本文のrepeat | |
| ③内容に関するQ&A | |
| ④flash cardで新出語(句)の確認 | |
| ⑤summaryを見て空欄を埋める | |
| ⑥Q&Aに近い形で本文を誘い出す | |
| 【開本】…音読 | |
| ①chorus reading | |
| ②read and look up | |
| ③individual reading | |
| ④response reading | |

る練習ができるようにしている。

reproduction とは、教科書で読んだ本文のストーリーを、教科書やノートを見ないで自分の英語で再生していく活動である。音読で取り入れた語彙や構文などの知識を実際に使用することで、知識が intake されると考え、取り組んでみた。ここでは、十分に内容を理解させることとともに、生徒がストーリーの流れを思い出しやすくするために、明確なヒントを与えることに気をつけた。reproduction した内容は、隣の人に聞いてもらって確認したり、ボイスレコーダーに録音して自分で確認させたりした。

reproduction までもっていくために、今年度本校で行ってみた reading 指導の流れが左図である。

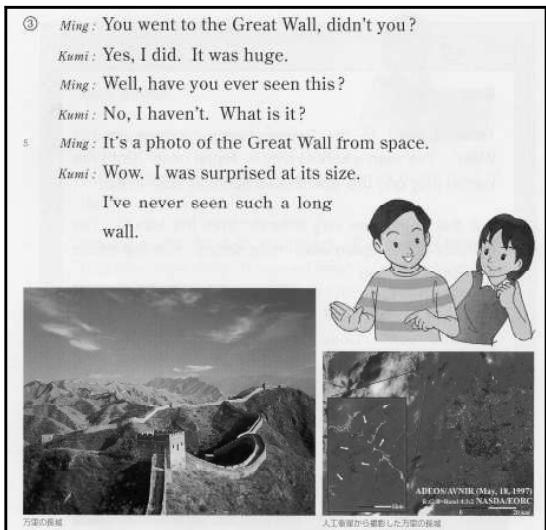
セクションごとのワークシートには、必ず黒板に貼った絵と同じものを用意し、自主学習時に絵を見て文を再生す

(2)教科書本文を理解させた後の活動

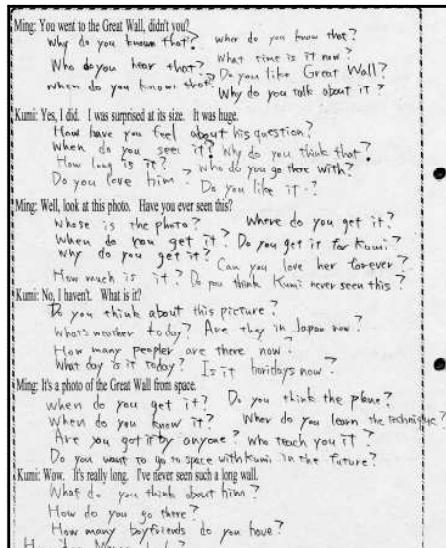
① 教科書の本文を読んで、不明確なことについて質問をするactive reading

少しでも生徒の頭の中に本文を記憶させておくためには、繰り返し本文に触れさせることが重要だと考える。そこで、生徒が意欲的かつ自然に、本文に繰り返し触れる活動を考え、実践した。

【3年:Lesson 3 Kumi Visits China】



【生徒が書いた質問】



教科書本文は、生徒が効率よく学習できるように作られており、文の量にも配慮されているため、内容が曖昧なことが多くある。そこで、本文の内容理解を図った上で、不明確なことや知りたいことについて質問させる活動をおこなった。これにより、場面を

よく考え、不自然なところやはっきりしないところを読み取ろうとすることができた。この Lesson では、「なぜ Ming は、Kumi が万里の長城に行ったことを知っているのか?」や、「いつの間にこんな写真を用意したのか?」「ミンは久美のことが好きなのか?」などの疑問が挙げられ、全体で考えた質問を出し合う中で、楽しく活動することができた。

② 本文に関する質問を生徒が作成するmake questions

【2年: Let's Read 1 A Pot of Poison】

Master: I'm going away for two days.
 An: Yes, master.
 Master: See that pot? It's very important. Watch it.
 Chin: Yes, master.
 Master: But don't touch it. It's full of poison.
 Kan: Poison? Poison!
 Master: Yes. Poison. Don't look into it either.
 An, Kan: No, master. We'll be very, very careful.
 Master: Good. I'll see you in two days. Goodbye.



【生徒が書いたquestionsと解答】

★ Let's Make Your Original Question ★ ~ Question を自作してみよう! ~

① Yes-No Questions
 - Does the master say, "Don't touch the pot."?
 - Do An, Chin and Kan eat the honey?
 - Does Chin say "Soon we'll die."?

② Wh- Questions
 - Who knocked over the pot?
 - Why didn't An, Chin and Kan die?
 - What was in the pot?

③ 直接本文に答えがない Questions
 - Why did the master say, "The pot is full of poison."
 - Why did Kan think it's honey?
 - Where did the master go away?

Let's Answer Your Friends' Questions

① Yes-No Questions
 - No, he isn't. → いえ、彼はいません。
 - Yes, he is. → はい、彼はいます。
 - No, it isn't. → いいえ、それはいません。

② Wh- Questions
 - An knocked. → あんが落とした。
 - An knocked over the pot when the master was going away. → あんがお師匠が去るときに壺を落とした。
 - It's the master's. → お師匠の。

③ 本文に答えがない Questions
 - I think his name is Doshio.
 - No?
 - Maybe, they're from China.

"between the lines" question や "beyond the lines" question を作ることができた。また、疑問文の文法チェックもお互いにできた。

本文を読んだ後、①

Yes-No question, ② Wh question ③本文に答えがない question の3種類の質問を生徒自身に作らせる活動を行った。作った後は、小集団(4人組)でお互いに質問を出し合った。全員が出し合って問い合わせに答えた後、答え合わせも行った。③を作らせたことで、"Why did the master say, "The pot is full of poison."?のような、

③ 本文の内容の続きを考えて、original storyを作成する活動

【2年: Lesson 3 At the Zoo】

② Ratna: Those cages are so small.
 Ken: Yes. The large animals need more space.
 Will they go back to the wild?
 Ratna: No, they won't. Many animals have no homes in the wild.
 Ken: What do you mean?
 Ratna: Their homes and forests are disappearing. So they can't survive.



【生徒が自主学習の中で書いたoriginal story】

Kumi's birthday story part 1
 久美子(くみこ) 11歳 生日は1月10日です。
 Ming & Paul & Emma: Stop!! (They separated Ken from Kumi)
 Ken: Ouch!
 Emma: Sorry, Ken! But it is for you!
 Ming & Paul: Kumi... Are you all right?
 Kumi: Yes... why do you ask me?
 Ming: If your mouth get dirty, what shall I do? I think it.
 Kumi: Ken isn't such a dirty man...
 Ming: I, I don't think so! He is my best friend!

本文の内容理解と、動物愛護について考える活動が一通り終わったところで、登場人物であるケンとラトナが2人で歩いている絵を提示し、"They had a date. By the way, what do you usually talk on a date?"と質問し、本文の不自然さに気づかせた。

よく考えると、せっかくのデートだというのに会話を楽しんでいる様子は見られず、動物愛護の話に真剣になっているのである。これに気づかせた後、本文の前の部分「デートに誘う場面」、「デート中の会話」、「デートの後の場面」のいずれかについて考えさせ、original storyを作成する活動を行った。生徒たちは、教科書の他の登場人物も登場させながら、ユーモラスな文章を作成した。作成した後は、相互に読み合って投票を行い、5 Best Storiesを決定した。生徒の中には、単元終了後の自主学習として、さらに続きのストーリーを作成する生徒もいた。

④ テーマに沿ったstoryを作成する活動

せっかく教科書本文を intake するところまで学習しても、学んだことを output する機会がなければ、生徒は教科書を学習する有用性を見いだせない。自分の言いたいことや伝えたいことを表現する時に、教科書で学んだ表現を自然に用いることができれば、次の教科書学習を行う時のモチベーションを向上させることになると考える。

My name is _____.

I'm thirteen and I live in Japan.

In Japan Monster Hunter is very popular.

Many people have a Monster Hunter.

I'm happy to play it.

It hunts a monster.

Please tell me about your country.

動詞

My son has the game too!

When did you buy it?

★ Words List ★

| English | Japanese |
|---------|----------|
| Monster | 怪物 |
| Hunter | 狩人 |

(1年生時 学力調査25点生徒作品)

上図は、日本ではやっていることについて紹介のメールを書く活動で、生徒が書いた文章である。はやっている内容としては、「せっかくだから、自分の好きなテーマで書いてみよう」と指示し、芸能、スポーツ、ニュースなどのジャンルを提示し、辞書のみを使って個人作業で英文を作成させた。提出された物には、必ず内容に関するコメントを書いて返却するようにした。また、辞書で調べた単語については、words list に記入させるようにし、自分が興味をもっている内容について表現したい時には、いつでも振り返って参考にすることができるようにしておいた。

⑤ 自学ノートでの英作文・日記の奨励

Monday, July 20 I went to Anyoji Pool with my three friends. There we saw a lot of people swimming. We wanted to swim soon. So we jumped into the water. Halfway I was hungry, I bought a frank. It's expensive, but it's good! Today was cloudy, but it wasn't cold. I want to go there someday. I went to the Wakoba River. We caught five fish. I had a good time. After noon I went shopping and bought some pens. I studied for two hours. Many people around the world make friends.

毎日の自学ノートでは、学習内容として

- ①単語や句動詞、慣用表現の徹底練習
- ②教科書本文のリプロダクション練習
- ③英語ワークの練習 をあげているが、チャレンジしたい生徒には、英文日記を書かせるようにしている。

(資料7)は、ある生徒が書いた英文日記である。この日記を書いた7/20の時点で、教科書学習は Unit3 をちょうど終えたところであるが、いくつかの文章で、教科書で過去に学んだ文章を上手く用いて表現していることがわかる。4行目で用いられている、

"So we jumped into the water."は、Unit1で学んだ、"Rio jumped into the water, too."(p.6. 1.4~5)をうまく利用している。

このように、自分の言いたいことにうまく教科書の文章を用いることができたものは、授業の中で紹介し、教科書を身近な手本として感じさせるようにしている。

⑥ 聴き手を意識して本文を読むreading show

Reading Show

◇実施日 7月1日(火)第3時

◇内容 教卓の場所で、教科書の自分の好きな箇所を制限時間内読み続ける。

◇発表順 先生が指示した順

◇読む箇所 教科書 p.2～p.24

◇評価の観点

- ①Look-up で読んでいるか。
- ②声量、個々の音や音のつながり、リズムやイントネーションが英語らしいか。
- ③内容を理解し、それが伝わるように読みているか。

※当日は固定カメラを設置し、活動を記録する。

＜発表の手順＞

- ①待機場所に移動して自分の順番を待つ。
- ②前人が終ったら素早く発表場所に移動し、読み始める。
- ③合図があるまで、読み続ける。合図があったら途中でもやめる。
- ④読み終ったら素早くその場を離れて次の発表者に譲る。

＜注意事項＞

- ①発表が始まったら個人の練習は行わない。
- ②ロス・タイムをなくすため、少なくとも2人は待機場所についている。
- ③発表態度も評価の対象とするので、緊張感を持って行うこと。

※自分が選択した箇所を最高のレベルで読めるように十分練習してくること。
その際には評価の観点に留意して練習しましょう。

Kellerman (1985) の U-shaped development で主張されているとおり、教科書本文の言語データ運用力を高めるためには、繰り返しその本文に触れることが必要である。自主学習で触れさせることはその 1 つの例であるが、そのきっかけの 1 つとして、学期に一度 reading show を行っている。これは、学習済みの単元の中から 1 ページを自由に選択させ、声の大きさ、速さ、イントネーション、音の明瞭さなどに注意して聴き手を意識し、productive に本文を読む活動である。左図、実際に生徒に配布した文書である。

一人あたりの制限時間は 30 秒間。発表者のすぐ隣に 2 人ほど待機生徒として準備させておき、間をおかずにつづいて次々に自分が決めたページを読んでいく。評価の観点の第 1 は「look-up で読んでいるか」とし、聴き手を意識して本文を読むようにさせた。活動の様子はビデオに記録し、良かった生徒の発表は次の学年の生徒向けに残すようにしている。また、聴き手は各項目について A B C の 3 段階で発表者の評価を行った。

Ⅱ リプロダクションまでもっていく過程に関する意識調査とその分析

(1) 生徒の日記より

「なぜか分からなければ、なぜか書く
早く実力がつぶれて、全然書く
綴りの「English」(英語)で「アロウミ」という法」
やがて、やがて、と「アロウミ」やがて、
アロウミは、やがて、アロウミと、
やがて、やがて、やがて、やがて、
アロウミのアロウミ、アロウミと、
やがて、

| | | |
|-----|------------|------------------------------|
| 6 | 物 | プリントの絵+教科書で 勉強の効率を上げてみたね! |
| 教課後 | 今日の 3 時間目に | To, Unit 5 の Part 2 |

(2) 意識調査をもとにした3年生の分析

本年度、本校英語科で実践した教科書の導入方法やリプロダクションについて、教科書の内容を理解する上で有効であったかどうか、意識調査を実施した。

意識調査では、Likert Scale を用いて無記名で実施した。論文第5項「研究成果」であげた項目以外にとったデータを次ページ以降にあげる。

① ある生徒の答案用紙より

LESSON 1
I'll show you two rings one point. Are you OK? Finally cut along what happen to the rings?
ANSWER

LESSON 2
Thank you for May I ask you few questions? I have lived in this town since 2002. Are you from Tennessee, aren't you? Mt. Kaintomato. biotechnology better crops for eight years. interested in art. Tengatinga. Look at these pictures, for about ten years.

LESSON 3
Dear friend. I have just finished Yang a kabuki play Beijing opera. I was surprised at look at this photo. from the space.

LESSON 4
Have you heard about Setsuko Sadao? Sadao was 10 years old when the Atomic bomb was over Hiroshima. She suddenly became sick at the age of twelve. She had pock. She believed "It is possible for me to get well. I'll make a thousand paper cranes". Sadao died but many people remember her. They make paper cranes for her and for peace. You know what, about Sadao, I have visited a lot of other cities. Look at this. What does it say? It says that books about Sadao were published in over 30 countries. So her story is known around the world. What are these? They are strings of paper cranes. We call senbazuru. I remember people all over the world make senbazuru and send them to Hiroshima. This is the Atomic bomb Dome. What happened to it? The bomb exploded over it. It reached 200 degrees Centigrade. About 100,000 people were killed. (100,000)! That makes me sad. we will never forget this. So the Dome is over. It shows the power of and importance of peace.

LESSON 5
Ken, where do you want to go? I want to go to Mongolia. I'm interested in their life on the great grasslands. I want to stay in a ger. Also, I want to see the Naadam Festival. There will be many things to see: horses running in races and people wrestling in Mongolia's own matches. But, where do you want to go? I want to go to Andean Highland in South America.

There I can see the wonders created by nature. The Tabletop mountain is like islands in the sky. And I can see Angel Falls. It falls straight down about one kilometer. It is a longest waterfall in the world. beautiful.

The place I want to go is Korea. My e-mail friend Mina, lives in Seoul. She writes to me about school, work. I write to her about life in Japan. Korea is close to Japan. But, I've never been there. For example, I want to visit Mina and go to a summer concert. It will be fun.

LESSON 6
I have a dream. One day my four little children will not be judged by the color of their skin... Martin Luther King Jr. said this in a speech in 1963. He had a dream that is important to all of us. His dream was equality for all Americans, black and white. He tried for this dream. He fought for it and he died for it. In those days, there are many things that African Americans could not do. There were tables that they could not use. There were even drinking fountains that they could not use. African-American tables were separate. But they fought against this. Mrs. Rosa Parks was one of them. Mrs. Rosa Parks was a black woman who always took bus home from work. One day she took a seat near the white section. So the section filled up. or I'll call the police. She didn't move. The police came and arrested her. Martin Luther King heard this. Let's support her. They started a boycott which lasted more than a year. the civil rights movement. Nobel Peace Prize. For your sister. He died but he left the world. brotherhood slave owners.

リプロダクションした
單元

左図は、ある生徒の writing テストの答案用紙である。テストでは、各単元ごと教師が日本語で内容を説明した。生徒は、それを聞いて書ける文章を英文で書いた。リプロダクションしなかった単元とおこなった単元では、生徒が記憶している文章の量が極端に異なっていることが分かる。

さらに、これを拡大した下図の通り、

LESSON 1

I'll show you / two rings / one point

LESSON 3.

I have just finished / Yang / a kabuki play/ Beijing opera

*(/)は筆者が挿入。(/)の前後はつながりがない。

リプロダクションしなかった単元では、文章にできずに一部分しか書けない箇所が多く見られた。

一方で、おこなった単元では、下図の通り

LESSON 4

It says that, books about Sadao were published in over 30 countries.

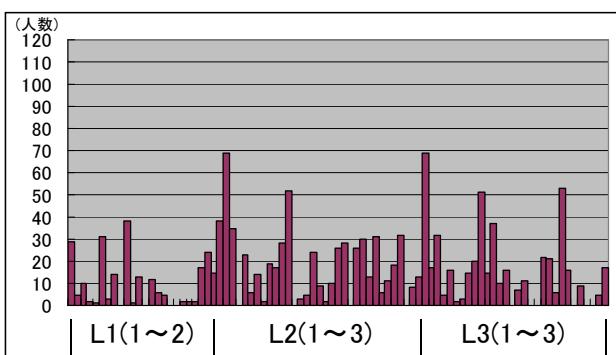
people all over the world make senbazuru and send them to Hiroshima.

1文が 10 語以上ある長い英文も、正しく書くことができている。

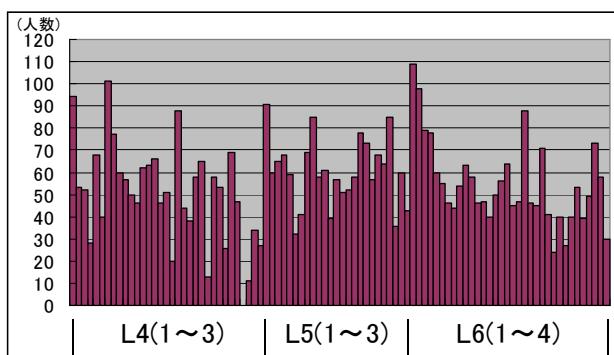
次頁にあるのは、学年全員の writing テストによる正答者数を表すグラフである。

② writing テストにより正しい文が書けた生徒の人数

【リプロダクションをおこなっていない単元】

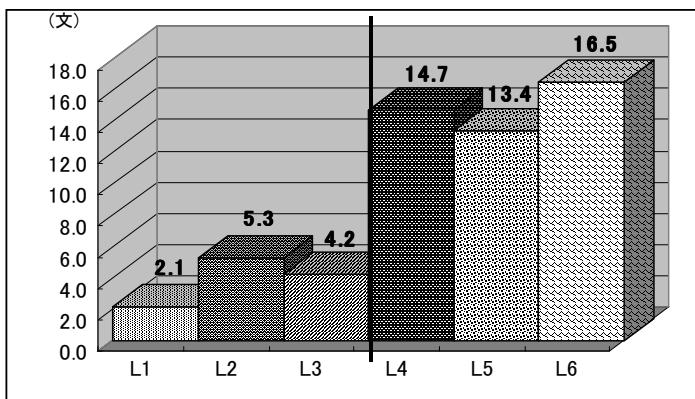


【リプロダクションをおこなった単元】



グラフからも分かるように、リプロダクションをおこなった単元はしなかった単元に比べ、はるかに多くの生徒が正しい英文を書くことができた。これらを、一人あたりの覚えている英文の量で表すと、以下の表の通りになる。

③ writing テストで正しい文が書けた一人あたりの分量



先ほどのある生徒の答案用紙とほぼ同じような結果が現れた。やはり、リプロダクションまでもっていく reading 指導をおこなったことで、生徒たちの頭の中に多くの生言語データを残すことができたと言える。

しかしここで一つ、疑問が残った。実は、Lesson2 では、教科書学習を終えた後、暗唱活動をおこなっていたのである。Lesson1 や Lesson3 に比べると、やや多くのデータが生徒たちの頭の中に残っていたが、リプロダク

ションまでもっていく活動をおこなった Lesson4 以降とは明らかに異なる。では、一体何が生徒にとって有効だったのであろうか？暗唱活動でおこなった活動は、以下の 5 点である。

- ①教科書を開本して教師が model readingをおこなった。
- ②単元の新出単語の意味を確認し、発音練習をおこなった。
- ③individual reading や pair readingをおこなった。
- ④内容理解を深めるための T-F Question や Q&Aをおこなった。
- ⑤ペアで暗唱練習をおこない、できたらお互いにサインする活動をおこなった。

一方、リプロダクションまでもっていく reading 指導の中でおこなった活動は、以下の 5 点である。

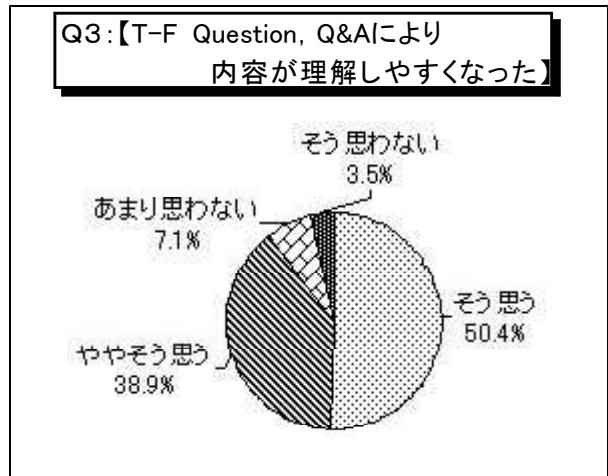
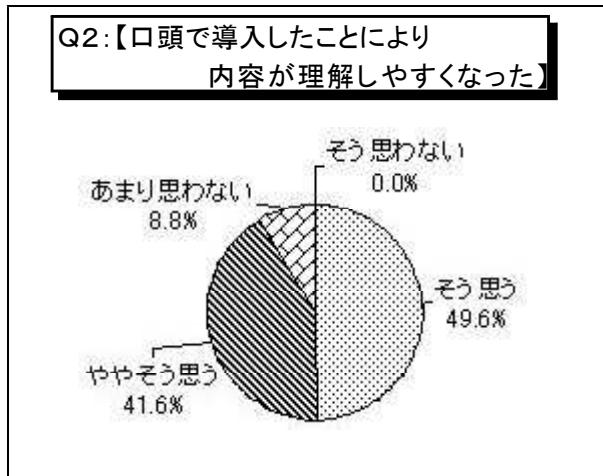
- ①教科書本文の導入は口頭で行い、教科書は使わず picture card のみを使用した。
- ②新出語の類推をさせた後、本文 summary にある空欄を埋める活動をおこなった。
- ③内容理解を深めるための T-F Question や Q&Aをおこなった。
- ④read and look-up 方式で練習してから、individual readingをおこなった。
- ⑤リプロダクションをおこなう直前に、response readingをおこなった。

Lesson4 以降も共通しておこなったのは T-F Question, Q&A のみである。これらの活動をおこなったことで、より教科書の内容を深く理解させ、長期間生徒の頭の中に言語データを残すことができたと考える。さらに、生徒にこれらの活動の有効性について意識調査をおこなった。

意識調査は Q 1 と同じく Likert Scale を用いて無記名で実施した。次頁の表がその結果である。

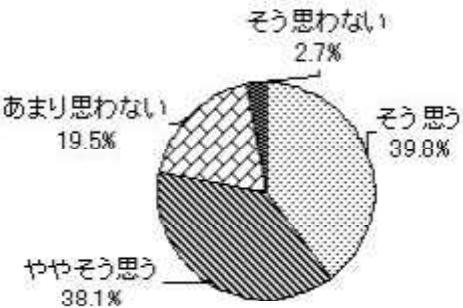
(3) リプロダクションまでもっていく過程に関する意識調査とその分析

① 内容理解を深める活動について

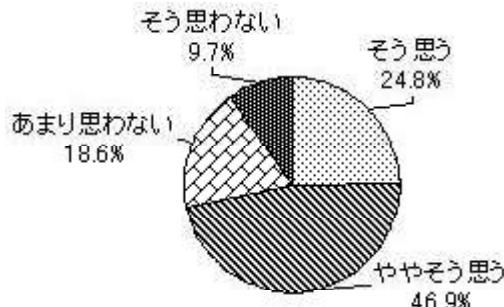


② リプロダクションに至るまでの活動について

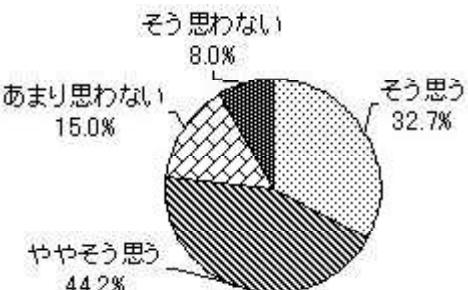
Q4:【本文summaryの穴埋めをしたこと
は、リプロダクションに有効だった】



Q5:【read and look-up方式の読みは、リプロダクションに有効だった】



Q6:【response readingは、
リプロダクションに有効だった】



①について、意識調査の結果、以下の活動が有効であると言える。

教科書本文の導入では、教科書を一切使わず、教師の話す英文とpicture cardを用いる。新出語は話の概要や教師の言い換えから類推させる。

この導入方法をとれば、内容理解が深まると回答した生徒は、9割以上にもなったのである。

②リプロダクションに至るまでの活動について、本文 *summary* の穴埋めは、生徒が苦手としている前置詞や助動詞、新出語を中心におこなったが、こ

の効果は7割弱の生徒にとって有効であった。また、教科書 reading の方法についても、read and look-up 方式の読みをしてから、response reading をおこなえば、リプロダクションしやすくなる生徒の人数が増えていていることが分かる。しかし、①の質問項目に比べると有効であると答えた生徒の割合が2割近く減っていることから、内容理解後の repeat や Q&A など、開本前の活動をより工夫していく必要があると考えられる。これまでの分析から、以下のことが言える。

- ・リプロダクションまでもっていくreading指導をおこなえば、生徒の頭の中に多くの生言語データを残すことができる。
 - ・その手立てとして、開本してreading活動をおこなう前に、本文に対する理解(内容・英文)が深まっていることが重要である。

③ 内容理解後の活動に関する生徒の日記

